



『美和の中世城郭 小田野城』

発行日	2018年5月28日
発行	森と地域の調和を考える会 (代表 龍崎 真一)
編集	森と地域の調和を考える会 佐藤 誠 (小田野区長)
小田野城イメージ図	河西 和文 (森と地域の調和を考える会)
デザイン	大高 泰弘 (森と地域の調和を考える会)

茨城県常陸大宮市小田野

美和の中世城郭

小田野城

森と地域の調和を考える会(木の駅プロジェクト美和実行委員会)

美和の中世城郭 小田野城

おだのじょう

一、はじめに

常陸大宮市美和地域（旧美和村域）で市民を中心に活動する「森と地域の調和を考える会」では、その活動の一環として常陸大宮市教育委員会や茨城大学中世史研究会の協力を得て、美和地域に所在する中世城郭の整備事業を進めています。

すでに平成二十六・七年度には、高部地区に所在する高部館・高部向館の草刈り整備を行い、あらためて縄張調査を実施したところ、長いあいだ草に埋もれていた地表遺構が姿を現し、城郭の全体像が浮かび上がりました。そして高部地区を、本城（高部館）のほかに出城（高部向館）・根小屋（城主や家臣団の空間）・宿（城下）・河川（惣構）までもが一体で残り、戦国時代の雰囲気を感じられる魅力ある地域として紹介しました（山川編 二〇二六）。平成二十八年度は、高部地区の西方約四kmに位置する、鷲子地区の河内城・河内城向館を対象に、同様の事業に取り組みました（山川・須貝編 二〇二七）。

今年度は、高部地区と鷲子地区の間に位置する、小田野地区の小田野城を対象に取り組み、この小田野城が南方の小田野口・北方の武茂（那珂川町）・西方の鷲子山へと分岐する三叉路に位置し地理的に重要な城であったことが明らかになりました。

なおこの報告書は「森と地域の調和を考える会（木の駅プロジェクト美和実行委員会）」、「茨城大学中世史研究会」、「常陸大宮市 浪漫文化街並みづくり事業」が共催した小田野城ヒストリートーク&山城ツアーの内容を元に刊行するものです。

本書の構成は以下の通りです。

一、はじめに

二、小田野氏について

三、小田野城跡と周辺の文化財

Ⅰ 小田野城の構造

Ⅱ 小田野の空間と周辺文化財

四、小田野の三浦様（永福寺・藤福寺として三浦神社）

五、「森と地域の調和を考える会」の取り組み

執筆は、一・二・五を龍崎眞一（森と地域の調和を考える会）、三・四を山川千博（常陸大宮市史編さん委員会古代・中世史部会）、三・二を須貝慎吾（茨城大学中世史研究会）、四を佐藤誠（小田野区長）が分担しました。

1 頁

3 頁

5 頁

7 頁

9 頁

10 頁



小田野城の整備（二〇一七年十月四日）



ヒストリートーク&ツアー（二〇一八年三月十日）



ヒストリートーク



吉田八幡神社で高野宮司のお話を聞く



前川 辰徳（茨城大学中世史研究会） 須貝 慎吾（茨城大学中世史研究会） 佐藤 誠（小田野区長）



2 美和工芸ふれあいセンターで



小田野城入口で小田野お囃子保存会の子どもたちのお出迎え

二、小田野氏について

小田野氏の成立

小田野氏は佐竹氏の一族山入氏の庶家(分家)です。
室町初期、佐竹貞義の七男山入師義の三男自義が常陸国那珂郡小田野に築城し、以来九代二百五十年間続きました。

佐竹の乱(山入の乱)と小田野氏

応永十四年(一四〇五)佐竹十二代義盛が死去すると、義盛には男子がなかったことから、佐竹氏は関東管領上杉家から養子を迎えようとなりました。これに山入与義をはじめ佐竹の有力な庶家(稲木氏・長倉氏)が反対し、佐竹家は後継問題で二つに分かれて争うことになりました。これが佐竹の乱と呼ばれるものです。この時小田野氏は山入氏の庶家であるにもかかわらず佐竹氏の側で戦うことを選択します。この佐竹の乱は百年続き、山入氏の敗北で終わりを告げました。この乱で小田野氏は功績を上げ、佐竹家の中での地位を確立してゆきます。

戦国時代の小田野氏

小田野氏は、佐竹氏の一族山入氏の庶流という出自を持ちながら、山入氏と佐竹氏宗家の抗争の中で宗家に接近して重臣化した一族であり、宿老(重臣)であつたと考えられます。

小田野義正は佐竹義昭の重臣となり、和田昭為とともに義昭側近の筆頭でした。

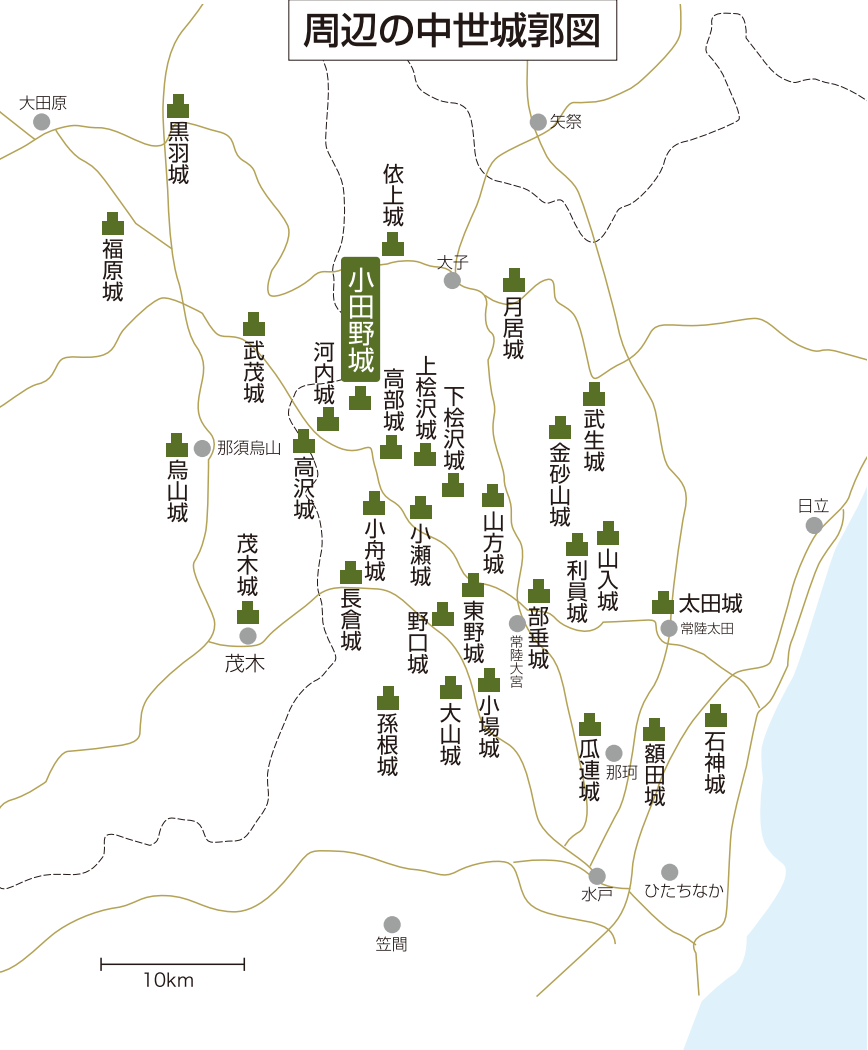
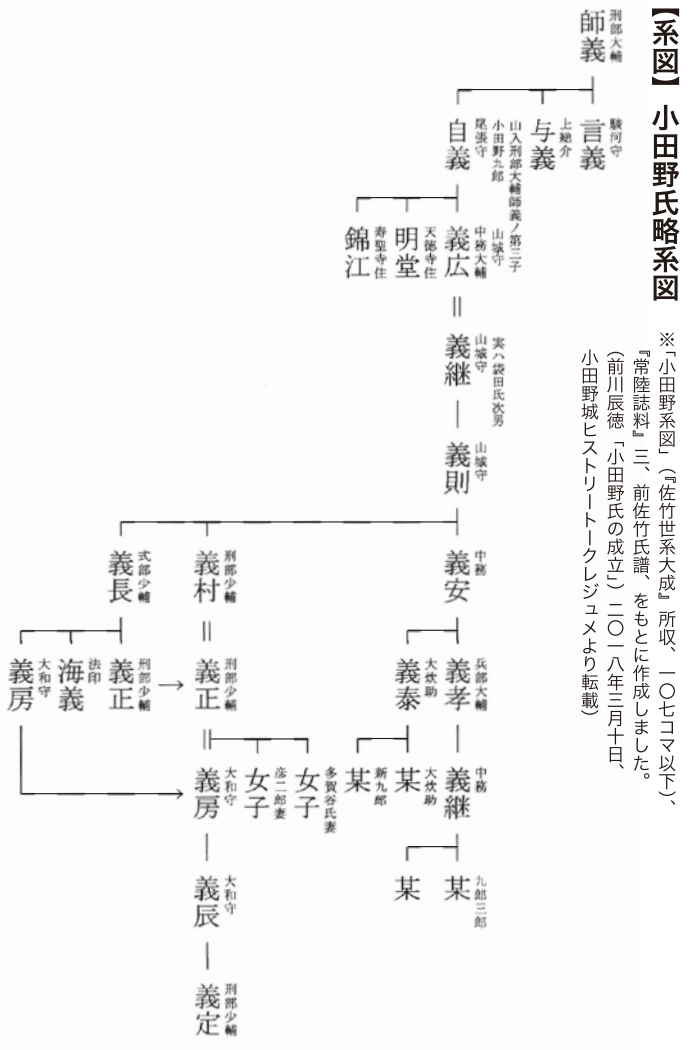
小田野義房は義長の末子で義正の弟。僧侶でしたが、還俗して兄義正の跡を継ぎました。佐竹義昭・義重の二代に仕えた重臣でした。

小田野義忠は義房の子。文禄四年(一五九五)久慈郡深秋の蔵入地一一七三石を預かりました。

佐竹氏とともに秋田へ

天正十九年(一五九〇)小田野義安の時代、小田野氏は水戸へ移り、小田野城は廃城となりました。

慶長七年(一六〇二)、佐竹氏の常陸から秋田への転封に際し、小田野義忠は子宣忠とともに秋田へ移りました。



10km



小田野村一村惣図 (美和村史料 近世村絵図 美和村史編さん委員会)

三、小田野城跡と周辺の文化財

I 小田野城の構造

小田野城跡は、小田野地内を南流する小田野川の右岸の、標高約二九〇mの尾根の先端部に位置します(写真①)。県道小田野大那地線を、烏帽子掛峠に向かい北上し、小田野中郷集落センターを越えた先の、左手の山が城跡です。この場所は、南方の小田野口・北方の武茂(那珂川町)・西方の鷲子山へと分岐する三叉路にあたり、交通上の要所に構えた城郭と言えます。

左頁の図は、小田野城跡の縄張図です。城の遺構は、山頂に設けられた主郭(本丸)を中心に尾根上に展開し(写真②)、北東・南東・南西麓に向かい、何段もの狭小な曲輪(防壁された平場)が連続して下る形で残ります。縄張図に見られるように、曲輪同士はそれぞれが細い曲輪で繋がりが合い、戦時に連携するための構造を持ちます。

小田野城では、北東方向の守りが最も固く、武茂方面を警戒しています。その証拠に、城の北東麓には、根小屋(城主の居住地・軍勢の駐屯地)と思われる広い曲輪が見られ(写真③)、その南北にある沢への敵の侵入を警戒しています。特に北の沢への備えは厳重で、沢に沿って曲輪を配置するのみならず、沢に侵入した敵が主郭に到達しないよう、主郭の北側斜面に連続した切岸(人工的に削った斜面)と堅堀(斜面に縦方向に掘った堀)を設け、徹底した防壁を施しています。この、主郭の北東方向は、字「瀧ノ崎」と言い、「館の先」(城の先端部)が転訛した可能性があり、文字通り、城に取り付くための最初の地点と言えます。

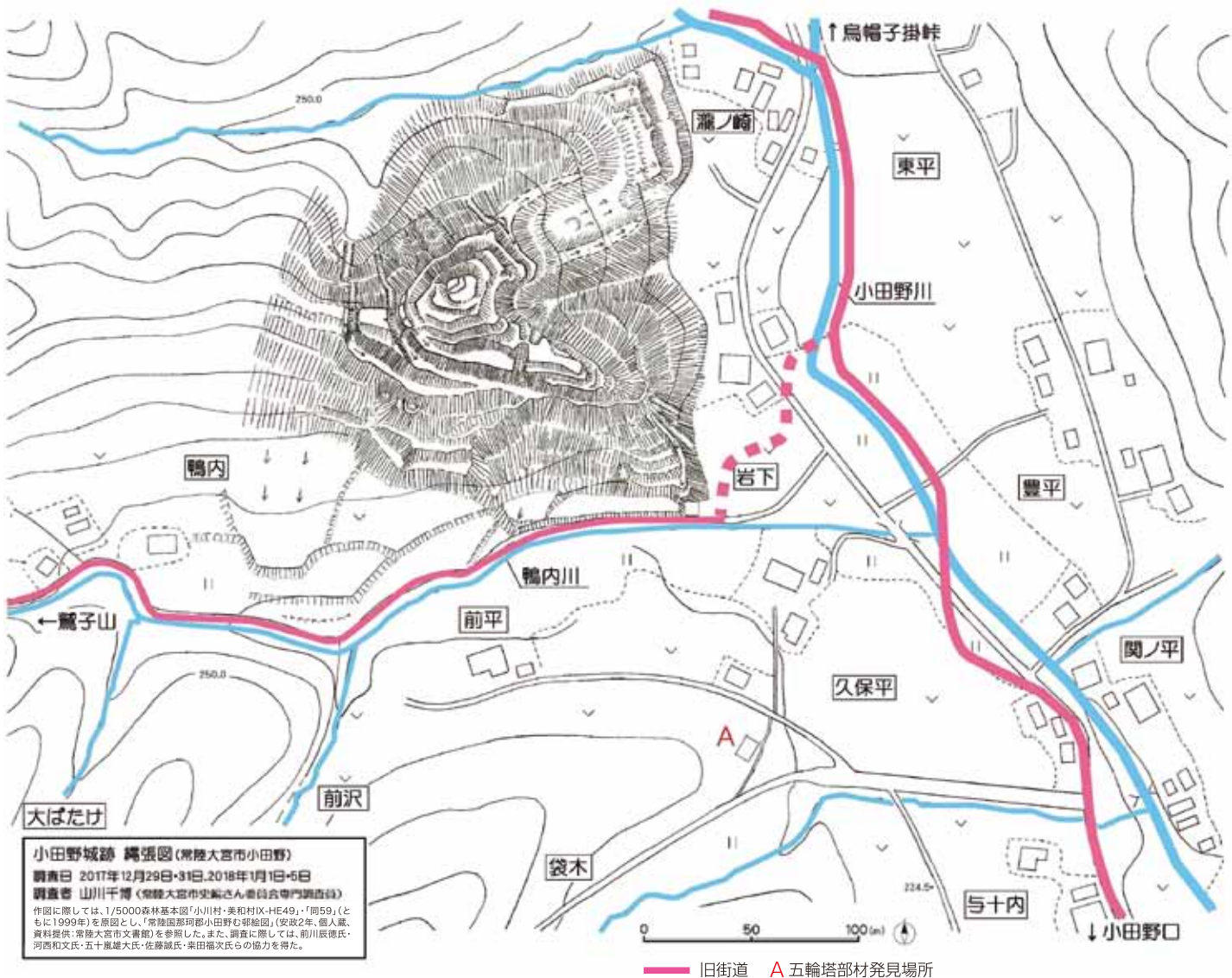
また、南東麓の字「岩下」から登る道もあり、この道は、堅堀と堅土塁、数段の腰曲輪により強固に守られています。そして腰曲輪群を登りきると、主郭から南東に突き出した、

細長い尾根上の曲輪からの攻撃に晒されます。さらに西進すると、迷路のように三段の道に分かれ、そのいずれを進んでも、主郭南西部に設けられた、三本の堀切の底に到達します(写真④)。このように、できるだけ長く敵を歩かせ、その間に上方の曲輪から攻撃して消耗させ、最後は堀底に誘導するという仕掛けが、遺構から読み取れます。先述した通り、城の北東部が敵を侵入させない構造なのに対し、この南東部は、城内への敵の侵入を想定した造りと考えられます。このように、小田野城では北東から南東にかけて、強固な防御ラインを形成しています。

一方、主郭の南西方向は比較的なだらかな斜面で、麓の字「鴨内」に向かい、道も緩やかに下ります。この南西麓は、鴨内川が南に蛇行するのに伴い平坦面が広がり、そのため居住空間として使用された可能性が考えられます。「鴨内」の地名からも、城の「内側」という印象を受けます。小田野城は、近隣の高部や河内などの城・宿一体型の城郭とは異なり、宿から離れた位置に築かれています。そのため、この南西麓が宿の代わりに城下の空間となっていたのかもしれませんが。

また、鴨内川の南岸、字「久保平」のA地点からは、近年、個人宅の墓地改修に伴い、多くの五輪塔部材が発見されました(写真⑤)。これらの造立年代は今のところ不明ですが、数の多さや、ほとんどの塔が同じくらいの大きさであることから、同一の一族や集団により、一括で祀られていたと考えられます。この位置には以前、寺院などの宗教施設があった可能性が高く、小田野城や城主との関連については、今後検討すべき課題です。

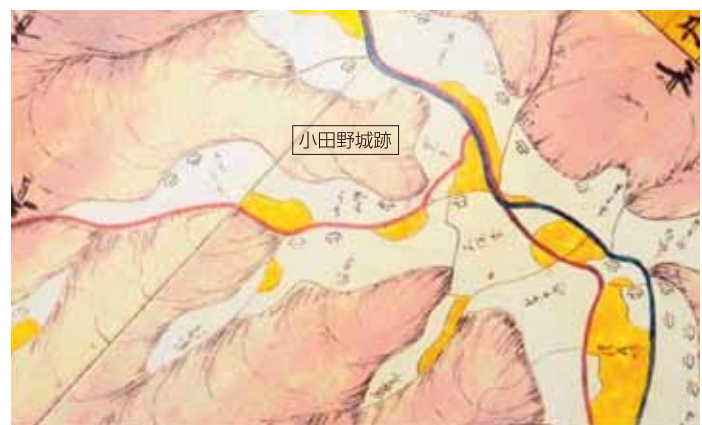
以上のように、小田野城では、武茂方面である北側を外として強固な防御構造を持ち、小田野宿方面である南側を内として、居住空間や宗教施設等を配置していたと思われる。



小田野城跡 縄張図(常陸大宮市小田野)
調査日 2017年12月29日・31日、2018年1月1日・6日
調査者 山川千博(常陸大宮市史跡文化財研究会専門調査員)
作図に拠るは、1/5000森林基本図「小川村・美和村区-HE49」・「H59」(ともに1999年)を原図とし、「常陸国那珂郡小田野町部絵図」(安政2年、個人蔵、資料提供:常陸大宮市文書館)を参照した。また、調査に際しては、前川康徳氏・河野和文氏・五十嵐雄大氏・佐藤誠氏・桑田福次氏らの協力を得た。



③



常陸国那珂郡小田野町絵図(部分)
(個人蔵、画像提供:常陸大宮市文書館、一部加筆)



⑤



④



②



①

II 小田野の空間と周辺文化財

小田野は下野国との国境沿いにある交通の要所であり、高部・鷲子の間に位置し、小田野の入り口にあたる小田野口から烏帽子掛峠まで、「下郷」、「中郷」、「上郷」と続く細い谷状の土地に形成されています。

北限は上郷の烏帽子掛峠、南限は小舟から小田野口へ入る花立峠（市指定文化財）、中間に位置する中郷は小田野城を中心とする城下空間となっています。

小田野宿は小田野城から約3km離れた小田野口に位置し、鎌倉時代の三浦氏伝承が残る吉田八幡神社の参詣道。「下郷」、「小田野口」は小田野の交通の要衝であり、商業地的空間でした。

吉田八幡神社

平安時代初期の大同二年（八〇二）に八幡神社として創建。祭神は日本武尊（やまとたけるのみこと）と誉田別尊（ほんだわけのみこと）。

三浦杉

樹齢八百年以上の杉の銘木。通直で大きく樹勢があり、茨城県指定天然記念物。



吉田八幡神社／三浦杉

一・二五五年三浦大介が那須野に金毛九尾の悪狐を退治に行く途中で植たと伝えられている。

三浦神社

三浦大介（空智上人）が妖狐退治後、この地に真宗の永福寺を建立したのが始まり。江戸時代に真言宗の藤福寺、その後三浦神社となる。

三浦大介坐像

三浦神社に安置。三浦大介は妖狐（九尾の狐）退治の後、真宗の永福寺を建立。親鸞の門に入り「空智」と号したといわれている。高さ67cmの坐像。

不動明王像

三浦神社に安置。市指定文化財。元禄時代、光圀により修復されたと裏書がある。

五輪塔群（小田野一族の宗教的区間）

字「久保平」の個人宅で近年発見される。数の多さやサイズの均一性から、同一の一族や集団により、一括で祀られていたことが想定されます。



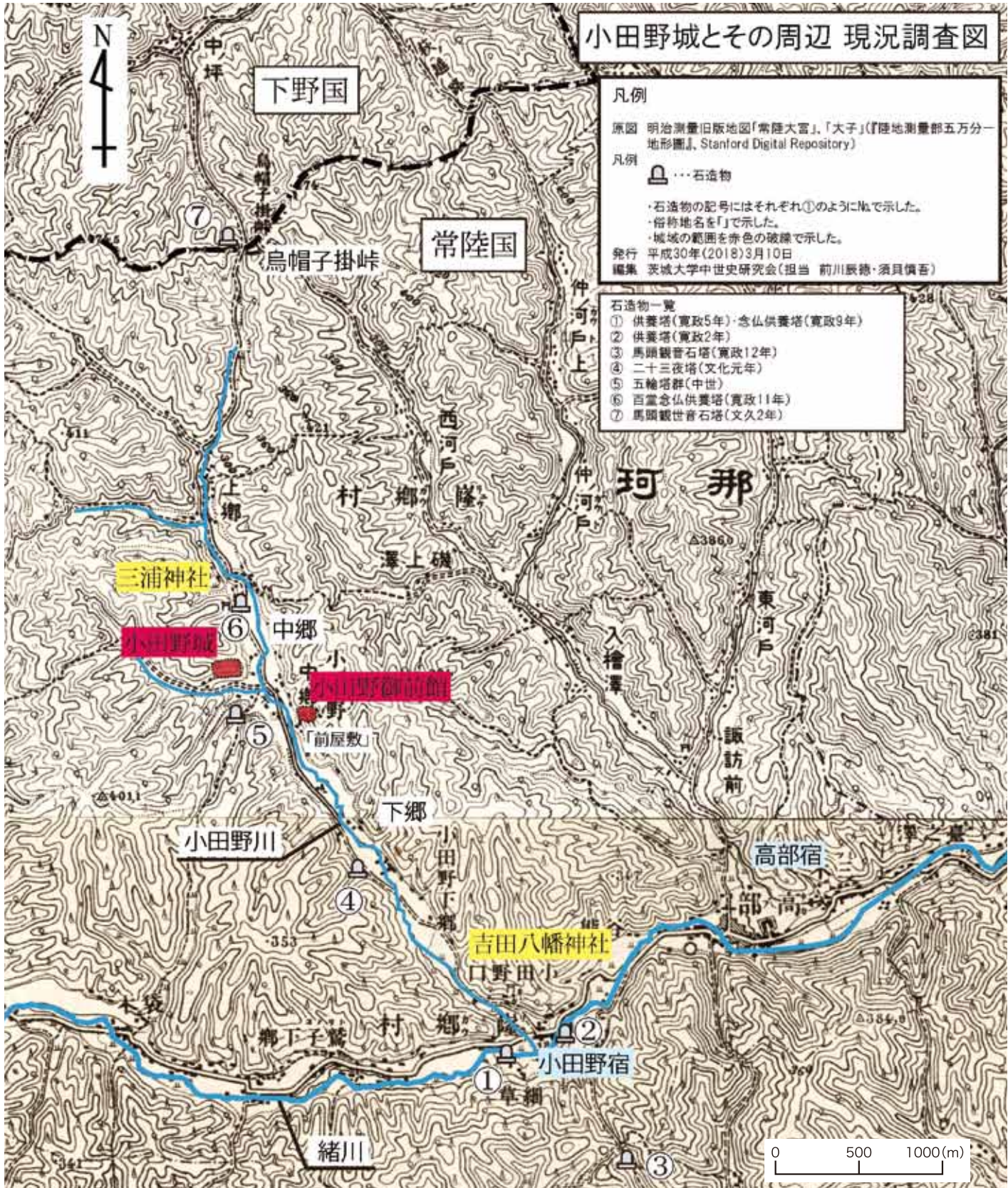
三浦大介坐像（三浦神社）



不動明王像（三浦神社）



三浦神社



8 烏帽子掛峠



花立峠、馬頭観音石塔

四、小田野の三浦様(永福寺・藤福寺そして三浦神社)

小田野区長 佐藤 誠

●三浦大介義明

平安時代末期「わしは ただの介 ではないぞ」衣笠合戦(一一八四年)八十九歳、源頼朝の開運、一一九四年万昌寺建立、十七回忌法要「あなたは 私の心の中で まだ生きてゐる、鶴は千年 亀は万年 三浦大介百六つ」。

●三浦大介と吉田八幡神社

平安時代初期の大同二年(八〇二)に八幡神社として創建されました。

久壽二年(一一五五)三浦大介義明が、下野の国那須野が原に白面金毛九尾の悪狐退治に行く途中、この神社に参拝、祈願して植えた杉と伝えられています。

●三浦杉

もともとは「鎌倉杉」と言い、二本はそれぞれ「男杉」「女杉」と呼ばれていました。元禄八年(二六九五)八月水戸光圀公により「三浦杉」と命名されました。

●妖狐伝説と殺生石

昔、顔が白く、金色の毛と九本の尾を持つ「白面金毛九尾の狐」がいました。不思議な術を身に付け、ありとあらゆる悪事を行い、アジア大陸であばれ廻った後、一一五四年、日本にやってきました。そして、玉藻前という美しい女官に化け、鳥羽院に仕えていましたが、占い師の阿部泰成に正体を見破られ、那須野が原に逃れました。

ここでも悪事を続けたため、久壽二年(一一五五)朝廷は三浦大介を將軍とした八万余の軍勢を派遣して狐を追い詰め、神から授かった鎧矢で射ると、狐は大きな石と化し、この石も近づく人々や鳥獣に猛毒を放つ

て災いをもたらしました。これを聞いた泉浜寺の源翁和尚が経文を記して、持参の杖で三回たたくと石は砕けました。人々は感謝し、石を砕く鎧を「ゲンノウ」と言うようになりました。

●三浦大介と永福寺

妖狐退治ののち、那須と那珂の地を与えられ、小田野に草庵を結び、鎌倉時代に真宗の清隆山永福寺を建立。親族の和田氏を介して、親鸞の門に入り「空智」と号して、自分の姿を沼の水面に映し彫刻した木像は、高さ六十七cm、室町時代の自作です。寛喜三年(一一三三)三月、七十三歳で亡くなったと伝えられています。二代住職は義空(三浦荒次郎義隆)水之沢城主で、十四代約四百年続きました。

●玉藻稲荷神社

栃木県大田原市の篠原地区には、玉藻の前の神霊と作神としての狐を祀る神社があります。「三浦大介義明」が九尾の狐を追跡中、見失ってしまったが池の面近くに伸びた桜の木の枝に、セミに化けた狐の正体が池に映ったので、難なく九尾の狐を狩ったと伝えられる「鏡が池」があります。他にも、萱野で拾い上げた美しい働き者の娘が、京の都で玉藻の前に化けた九尾の狐の話や、犬を放つて狐狩りの弓の稽古をする犬追いの話、那須氏の重臣で大関氏にも従った豪族で三浦義明の子孫角田氏(奥沢氏)がいました。

●那須の巻狩り

「吾妻鏡」や「那須郡誌」によると、源頼朝が建久四年(一一九三)近臣二十二名だ

けに弓を持たせ、三千人余りの規模で二十二日間続いた狩で、二十二名の中に三浦義村や千葉小太郎の名があり、これをもって狐狩りの武將になりました。

●永福寺に關した地名や屋号

草庵を結んだ水久保や堂下、寺の下、鐘突き堂の平らなところの金平、その先の金ヶ作。狐に三浦大介が矢を放ったところ、羽が入った羽入と根が落ちた片根、そして狐が逃げ込んだ沢が掛けて休んだ烏帽子掛峠。

●小田野城に關した地名と屋号

前の平らなところが前平、久保平の久保と前沢、鴨内や城の岩の下に岩下、東側の平らなところが東平から東、その下に下東、下、向かい側に向、他に御前もあります。「城主は御前の桜は大変素晴らしい桜であった」との伝承があります。

●秋田国替えと角館武家屋敷

慶長七年(一六〇二)佐竹氏、秋田氏久保田城、小田野義正家は有力家臣の格式を持つ家柄「秋田武艦」によると、六百石余りで、享保年間(二七一六)以後正純・正武がそれぞれ家老職を務めていました。

●角館武家屋敷の小田野家は義正の弟筋にあたり、「解体新書」の解剖挿絵を描き、秋田蘭画で著名な小田野直武や武芸で角館を代表する主水家が有名です。

●水戸浪士海後礎磯介

万延元年(一八六三)江戸城、

五、森と地域の調和を考える会の取り組み

桜田門外の変の時、浪士の一人海後礎磯介は、実兄が吉田八幡神社の高野久米之介であったことから、高野家をたびたび訪れ、事変後、高野家に潜み、さらに越後に隠れるなどしました。

●藤福寺から三浦神社へ

佐藤理兵衛は、高部入松沢の河西氏、大那地の大高氏と相談し、水戸場外の真言宗の寺を、永福寺の跡に移してほしいと水戸寺社奉行に願い出、寛文九年(二六六九)壇頭を佐藤理兵衛として藤福寺を永福寺の跡地に移し、六地藏寺の末寺になりました。藤福寺は江戸末期まで続き、檀家は満福寺へ移り、昭和四年に三浦神社になりました。

●三浦四天王の存在

小室、河西、平塚、和田の子孫も佐竹の家臣から土着武士名にあり、近世初頭まで四家が確認できる。

【参考・引用文献】

- 一、はじめに
 - ・山川千博編『中世の高部―戦国時代の山城高部館・向館、そして城下を受け継ぐ高部宿の姿を探る―』(森と地域の調和を考える会、二〇一六年)
 - ・山川千博・須貝慎吾編『美和の中世城郭―河内城・河内城向館・鷺子宿―森と地域の調和を考える会、二〇一七年
 - 二、小田野氏の成立
 - ・今井雅晴『室町時代の小田野氏と山入氏』(美和村史編さん委員会編『美和村史』、同村、一九九三年)
 - ・佐々木倫朗『戦国期権力佐竹氏の家臣団に関する一考察』(「大正大学大学院研究論集」三八、二〇一四年)
 - 三、小田野城跡と周辺の文化財
 - ・保立道久『中世民衆経済の展開』(講座 日本史 中世I 東京大学出版会、一九八四年)
 - ・今井雅晴『鎌倉時代の武士の興亡』(美和村史 美和村史編さん委員会編、一九九三年)
 - ・前川辰徳『佐竹氏と下野の武士』(高橋編『佐竹一族の中世』、高志書院、二〇一七年)

平成二十四年四月、美和地域の衰退に危機感を持ち、「森と地域の調和を考える会」(以下「当会」)を結成しました。それ以来、「地域主体(地域の力)による地域活性化」を目標に掲げ、さまざまな活動に取り組んでおります。

当会の活動コンセプトは、「地域資源を活かした地域活性化」です。この地域にある豊かな自然や日本の原風景・里山、地域に残る歴史文化遺産などを、地域特有の宝と位置づけ、またそれらを活用し、過疎地域の活性化を目指しています。

これまでの活動では、①森林資源を活用し、森林荒廃対策と商業活性化を図る「木の駅プロジェクト美和」を中心に、②広葉樹を活用した「美和の薪」製造販売事業、③子どもたちへの森林教室、④地域内の古い町並みの保存・整備事業、⑤地域の魅力を発掘・発信する歴史探索ツアー、⑥中世城郭の整備事業と、さまざまな事業・イベントを実施して参りました。

なかでも本書に關わる⑥では、当地域に点在する七つの山城と四つの向館の遺構を、未来に継承する文化遺産(宝もの)として位置づけ、平成二十五年六月から活動を継続しています。今年度は、あらたに小田野城を整備し、戦国時代の風景が残る貴重な地域を紹介するため、本書を作製しました。

当会の諸事業を通じて、地元の方々が、自分たちの暮らすこの場所の歴史的価値を見直し、また地域外の方々にも、この地域に關心を持っていただく機会になれば幸いです。



① 木の駅プロジェクト美和



② 薪製造販売事業



③ 森林教室(間伐体験) / 美和小学校



④ 岡山邸庭園(養浩園)整備



⑤ 歴史探索ツアー



⑥ 中世城郭整備事業

森と地域の調和を考える会

龍崎 眞一 川野 和彦 大森 豊 堀江 克己 河西 和文 薄井 均 清水 浩 大高 泰弘

小田野区環境活性化事業 平成29年度
なすしの那須衆 大田原と ゆっくり 日光 どうしょうぐう 東照宮
そして 鹿沼 上野めぐり 動く 陽明門!
平成29年6月18日(日)

「フットパス in 小田野」
お一人おひとりで 小田野を もっと知ろう!
コース Km
9:00 10:00 11:30 12:00 12:30
山崎村第一公民館(山崎村) 山崎村第二公民館(山崎村) 山崎村第三公民館(山崎村)
小道を 楽しお 心ばん おいしいものが みえる
※2019年6月18日(日) 9時 開門 12時 閉門

第1回 小田野のルーツを探る旅
～三浦氏の故地と国会議事堂見学～
2010年6月11日(金)

小田野区では小田野とゆかりのある場所を訪ねて地元の歴史を学んでいます。